

AXIES 教育技術開発部会 第14回研究会
『大学DXは どこまで進むのか?文科省PlusDX採択大学の取り組み(2)』

NCU LX・DX

(学生の学習意欲に寄り添う DATA Driven LXシステム構築計画)

2021年11月1日 15:10-16:00
名古屋市立大学 高等教育院
山田 勉

目次

1

本学の「教育の質保証」

第三期中期計画の完遂に向けて

2

学修者本意の教育をどう捉えるか

自律的な学修者と資質・能力の育成こそが目標

3

NCU LX・DXで何を実現するか

DXプラットフォーム & 学位プログラム最適化

名古屋市立大学

医療系3学部（医・薬・看）を擁する都市型総合大学



桜山(川澄)キャンパス
E学研究科・医学部
看護学研究科・看護学部



滝子(山の煙)キャンパス
経済学研究科・経済学部
人間文化研究科・人文社会学部
理学研究科・総合生命理学部

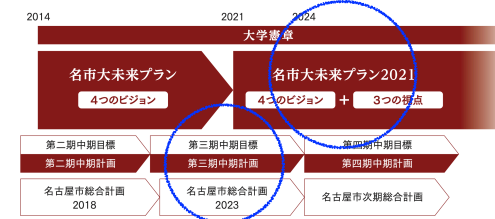


田辺通キャンパス
薬学研究科・薬学部



北千種キャンパス
芸術工学研究科・芸術工学部

- 人文・社会科学から学際的な芸術工学まで、幅広い学術領域を対象とする7学部7研究科を開設。
- 学生数：3,883名、大学院生：735名
教職員数：957名（令和3年5月1日現在。病院除く。）
- 3年連続・国内公立大学1位
「THE大学インパクトランキング2021」総合ランキング



目次

1

本学の「教育の質保証」

第三期中期計画の完遂に向けて

2

学修者本意の教育をどう捉えるか

自律的な学修者と資質・能力の育成こそが目標

3

NCU LX・DXで何を実現するか

DXプラットフォーム & 学位プログラム最適化

高等教育院設置

(平成30年度)

学修成果の可視化

- 「学生」に主体的な学びを促す
- 「大学（教員）」の教育改革、授業計画・方法の改善につなげる
- 「社会」に対して大学の説明責任を果たす

「教育の質保証体制の構築に向けて(3ポリシーの実質化)」(p.4)
(平成30年10月15日 部局長会議)

第三期中期計画（～令和6年3月31日）

中期計画1

「学修成果の可視化等により得られたデータをもとに、三つのポリシーとカリキュラムの点検を行い、各ポリシーとカリキュラムの更なる体系化を行う。また、学生が学修成果を自己評価するための新たな仕組みの導入を検討する。」

	平成29年度	平成30年度	平成31年度 令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
高等教育政策 動向	「3ポリシー ガイドライン」 (平成28年3月)			「教学マネジメント 指針」 (令和2年1月)	「デジタル活用 教育高度化事業」 (令和3年1月)		
3ポリシー	各学部・研究科 DP・CPの点検・ 改訂	改訂後のDP・CP を公表 →DP・CPに基づ く教育活動の実施			再点検	再検討	再改訂→
教育課程の 体系化		カリキュラムマッ プ・ツリーの作成	カリキュラム マップ・ツリーの 公表・点検・改正	教育課程を改正し たカリキュラム マップ・ツリーの 公表			学生が資質・能力 を身に付ける観点 からの最適化→
学修成果の 可視化		可視化の 方針検討	名古屋大学 教学マネジメント 基本方針の策定	学務情報システム (LMS)の改修	・DP目標別・成績 レダーチャート ・自己評価・成長 実感アンケート ・部局別・DP目標 達成度評価の検討	・eポートフォリオ (学修・評価・ キャリア開発) ・部局別・DP目標 達成エビデンスの 特定・開発	AIによる学修診断

目次

1

本学の「教育の質保証」

第三期中期計画の完遂に向けて

2

学修者本意の教育をどう捉えるか

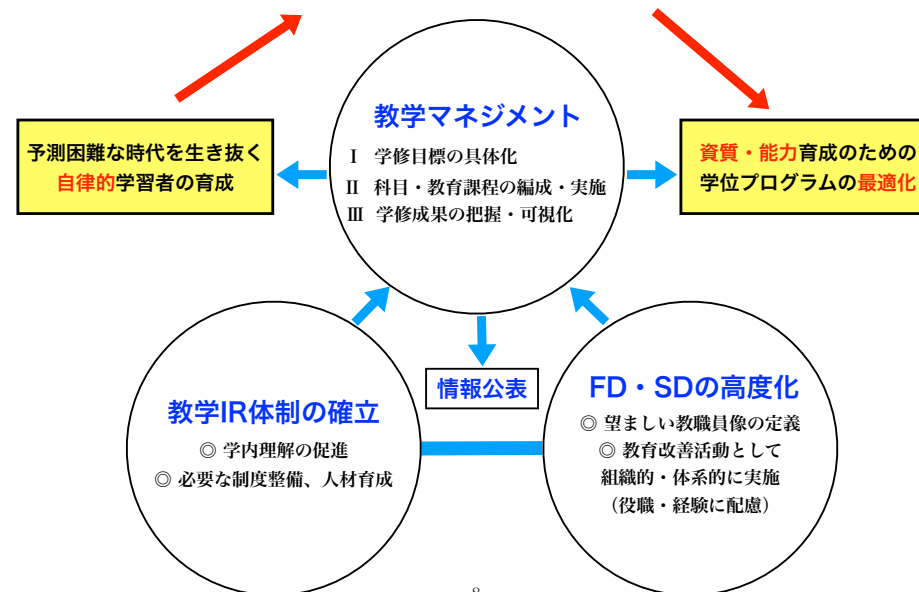
自律的な学修者と資質・能力の育成こそが目標

3

NCU LX・DXで何を実現するか

DXプラットフォーム & 学位プログラム最適化

【学修者本意の教育の実現】

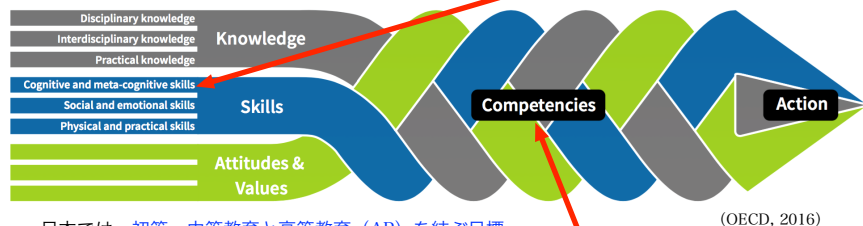


資質・能力—コンピテンシーと呼ばれる新しい能力

(求められているのは…)

OECD Education 2030 Framework

What do children have to learn?



- ・ 日本では、**初等・中等教育と高等教育（AP）を結び目標**
- ・ ただし日本の「資質・能力の三つの柱」は、「知識・技能」「**思考力・判断力・表現力等**」「学びに向かう力・人間性等」。
- ・ また、高次の認知的目標は、**領域固有**の専門的知識を基盤に成立していることに要注意。

(OECD, 2016)

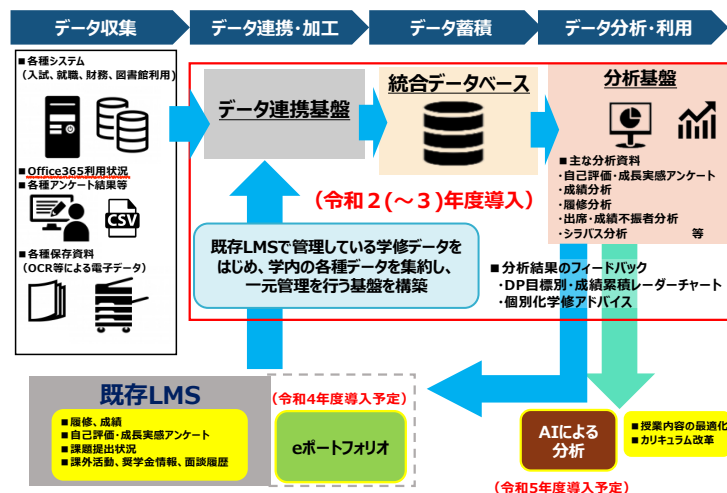
コンピテンシー基盤型プログラムが必要。

目次

- 1 本学の「教育の質保証」
第三期中期計画の完遂に向けて
- 2 学修者本意の教育をどう捉えるか
自律的な学修者と資質・能力の育成こそが目標
- 3 **NCU LX・DXで何を実現するか**
DXプラットフォーム & 学位プログラム最適化

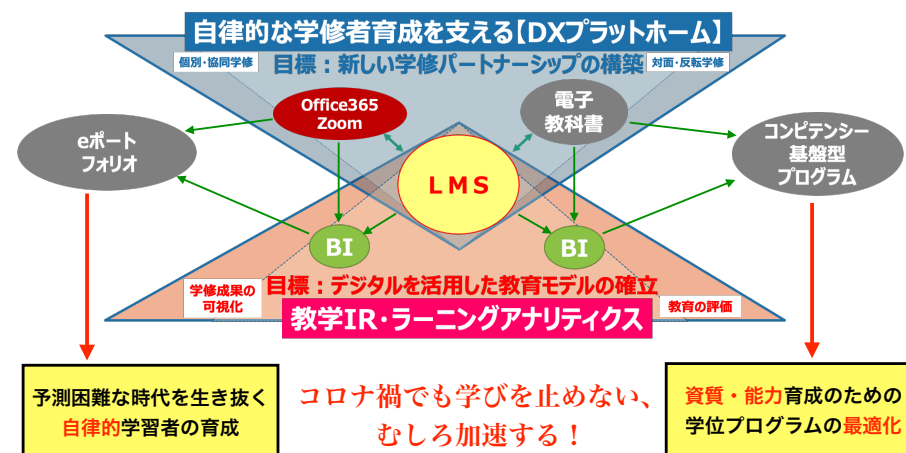
NCU LX • DX

(NCU Plan to build data-driven support for **Learner Experience** through **Digital Transformation**)



NCU LX·DX

学生の学修意欲に寄り添うDATA driven LXシステム

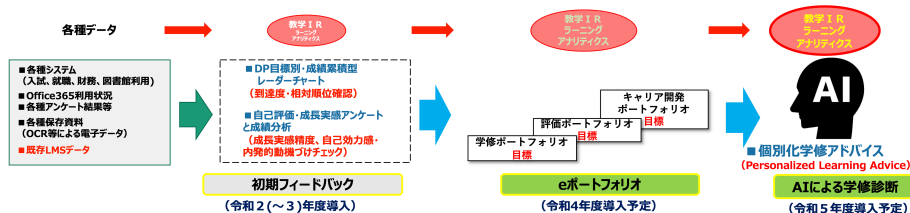


自律的な学修者を育成するDXプラットフォーム

(目標：新しい学修パートナーシップの構築)

- メタ認知の強化 → eポートフォリオ、個別化学修アドバイス
- 主体性を促す環境整備 → 協同学修ツール、デジタル学修教材拡充
- 客観／主観データのフィードバック → シラバス分析、自律性を追求した授業・課題改善
- データサイエンス学部（仮称）＊設置準備中との協働 → AIによる学修診断

コロナ禍に
負けない！

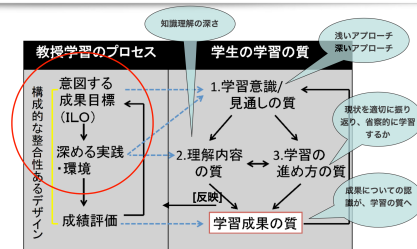


13

資質・能力を育む学位プログラムの最適化

(目標：デジタルを活用した教育モデルの確立)

- 構成主義的に整合した科目デザインの実現



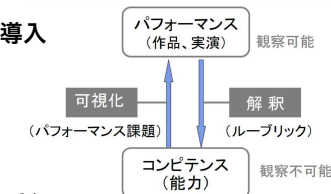
(出典：加藤，2013，p.60 図3に加藤の説明を加筆)

- プログラムレベルの学習サイクルの設定・可視化
→ 学生にも見えることが重要。課程教育の中に短い単位で埋め込んで繰り返し経験させて、学び方を学ばせる。

- パフォーマンス評価の体系的導入

思考する必然性のある場面で
生み出される学習者の振る舞いや作品
(パフォーマンス)を手がかりに、
概念理解の深さや知識・技能の
総合的な活用力を質的に評価する方法

(石井，2014，p.684)



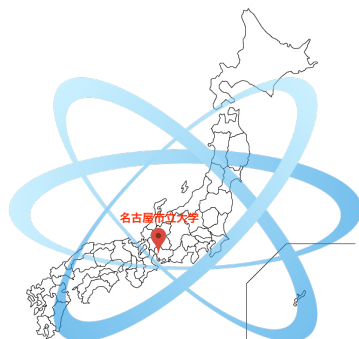
(出典：松下，2013)

14

参考文献

- 中央教育審議会大学分科会 (2020).『教学マネジメント指針』文部科学省.
- 石井英真 (2014).「活用する力を評価するパフォーマンス評価」『看護教育』Aug. Vol.55 No.8, 684-691.
- 加藤かおり (2013).「学習者中心の大学教育における学習をどう捉えるかー深いアプローチを手掛かりにー」『大学教育学会誌』第35巻第1号, 57-61.
- 松下佳代 (2013).「学習成果の評価の方法ーパフォーマンス評価を中心にー」平成25年度 (第16回) 弘前大学FDワークショップ, 11.
- OECD. (2016). *Global competency for an inclusive world*. (<http://globalcitizen.nctu.edu.tw/wp-content/uploads/2016/12/2.-Global-competency-for-an-inclusive-world.pdf>) (2020年11月26日)

多様なディシプリンによる教育を展開されている
全国の国公私立大学のみならず
具体的な知見の共有に努め、
また本学の実践例は、シンポジウム等を開催して
積極的に公開して参ります。
今後ともご理解・ご支援を賜りますよう
お願い申し上げます。
ご静聴ありがとうございました。



15